

令和5年度 山口県立宇部中央高等学校定時制課程 学校評価書 校長 河村 宏之

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日への理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒を育成する。
中・長期目標……………	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自己肯定感をもてる指導を推進し、ICTを活用した授業を研究するなど、教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。 卒業後につながる生活指導とともに、「総合的な探究の時間」における資格取得向上への取組など、早期からキャリア教育を意識した進路支援の充実が求められる必要がある。 支援が必要な生徒への対応を充実するため、校内の体制づくりを推進し、出来るだけ早期から外部関係機関との連携し生徒支援の切れ目が無いようにしていく。 ハローワーク等の専門機関との連携を深め、進路指導における全体の指導力の向上が必要である。 	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
(1) 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実 (2) ICTを活用して、主体的に学ぶ態度の育成 (3) 業務改善による教職員の資質向上と健康増進	

4 自己評価	5 学校関係者評価																																		
<table border="1"> <tr> <th>評価領域</th> <th>重点目標</th> <th>具体的方策(教育活動)</th> <th>評価基準</th> <th>達成度</th> <th>重点目標の達成状況の診断・分析</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">学習指導</td> <td>○生徒が自己肯定感をもてる取り組みを行う授業の研究を行い、教員全体の更なる指導力の向上を図る。</td> <td>・理解しやすい授業、わかる授業により基礎基本の定着を図るとともに、学習意欲向上に繋がる評価方法を確立。 ・ICTを活用した授業展開の研究を行い、教員全体の更なる指導力の向上を図る。</td> <td>生徒への授業アンケートを実施した結果、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計が48.0%以上であった。 2:40%以上であった。 1:40%未満であった。</td> <td>4</td> <td>・本校では3・4年次から、卒業後の進路に繋げるため、普通コースと商業コースに選択分けをしている。特に商業コースでは資格取得取得も併せており、生徒は各層に向けて頑張っている。また、普通コースにおいては、生活に即した内容も随時取り上げ、学習は単なる知識ではなく、実生活を豊かにすることに繋がっている事に気づかせる授業を展開している。授業アンケートでは、「よくあてはまる」67%、「ややあてはまる」26%の高い評価を得た。</td> </tr> <tr> <td>○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実</td> <td>・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに充実させる。また保護者との連絡を密に行い、家庭との協力や相談を密にする。</td> <td>4:研修会や検討会に参加し、指導力向上に繋がった。 3:研修会や検討会に参加し、指導力向上に繋がった。 2:研修会や検討会に参加したが、思うように指導力向上に繋がることができなかった。 1:研修会や検討会に参加したが、指導力向上に繋がることができなかった。</td> <td>3</td> <td>・生徒全員にタブレットが配付されており、教室には電子黒板が設置されている。また、教員用のタブレット1台ずつ完備されICT環境は整備されている。機器の使用に慣れない教員が多かったが、ICT機器の効率的・効果的な使い方を模索し、昨年に比べ多くの教員がスキルアップしてきている。また、週1回ICT支援員の方から、基本的な操作方法や効果的な指導方法を学ぶことが、ICTを用いた授業展開の工夫に大いに役立っている。また、本年度より始まるフルクラウド化を見据え、教職員を中心に対応を進めているところである。</td> </tr> </table>	評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学習指導	○生徒が自己肯定感をもてる取り組みを行う授業の研究を行い、教員全体の更なる指導力の向上を図る。	・理解しやすい授業、わかる授業により基礎基本の定着を図るとともに、学習意欲向上に繋がる評価方法を確立。 ・ICTを活用した授業展開の研究を行い、教員全体の更なる指導力の向上を図る。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計が48.0%以上であった。 2:40%以上であった。 1:40%未満であった。	4	・本校では3・4年次から、卒業後の進路に繋げるため、普通コースと商業コースに選択分けをしている。特に商業コースでは資格取得取得も併せており、生徒は各層に向けて頑張っている。また、普通コースにおいては、生活に即した内容も随時取り上げ、学習は単なる知識ではなく、実生活を豊かにすることに繋がっている事に気づかせる授業を展開している。授業アンケートでは、「よくあてはまる」67%、「ややあてはまる」26%の高い評価を得た。	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに充実させる。また保護者との連絡を密に行い、家庭との協力や相談を密にする。	4:研修会や検討会に参加し、指導力向上に繋がった。 3:研修会や検討会に参加し、指導力向上に繋がった。 2:研修会や検討会に参加したが、思うように指導力向上に繋がることができなかった。 1:研修会や検討会に参加したが、指導力向上に繋がることができなかった。	3	・生徒全員にタブレットが配付されており、教室には電子黒板が設置されている。また、教員用のタブレット1台ずつ完備されICT環境は整備されている。機器の使用に慣れない教員が多かったが、ICT機器の効率的・効果的な使い方を模索し、昨年に比べ多くの教員がスキルアップしてきている。また、週1回ICT支援員の方から、基本的な操作方法や効果的な指導方法を学ぶことが、ICTを用いた授業展開の工夫に大いに役立っている。また、本年度より始まるフルクラウド化を見据え、教職員を中心に対応を進めているところである。	<table border="1"> <tr> <th>評価領域</th> <th>重点目標</th> <th>具体的方策(教育活動)</th> <th>評価基準</th> <th>達成度</th> <th>重点目標の達成状況の診断・分析</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">生徒指導</td> <td>○日常の生徒の進路や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築</td> <td>・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が多様多岐であり、学校不適合による意欲の低下やいじめなどの人間関係トラブルを各学期のアンケート調査や個人面談により事前に察知し、全教員でその情報の共有をはかる。</td> <td>4:個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3:個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2:支援と指導に取り組みしたが、事後対応が主であった。 1:支援と指導が不十分であった。</td> <td>4</td> <td>・学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われてきた。希望に応じて、保護者のカウンセリングもしている。 ・また、校外での各種機関(市役所、児童相談所)とも必要な場合は連絡を取り、事業によっては協議に参加してきた。</td> </tr> <tr> <td>○個々の生徒の進路支援の充実</td> <td>・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。 ・「総合的な探究の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。</td> <td>4:7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3:半数以上の生徒へは支援をすることができた。 2:情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1:情報伝達に終わった。 4:生徒の70%以上が受検し、合格率は50%以上であった。 3:生徒の70%以上が受検し、合格率は30%以上であった。 2:生徒の50%以上が受検した。 1:生徒の50%未満しか受検しなかった。</td> <td>4</td> <td>・例年通りの進路決定に伴う支援をしてきた。進路希望を明確にしている生徒については、進学、就職ともに順調に進んだ。本年度進学希望者が増え、4年制大学3名(うち1名山陽小野田市立山田高等学校)、短大1名、専門学校6名であった。就職希望の生徒は少く、就職試験は1名が受検し、正規採用内定を得た。他の3名はアルバイト継続や家庭である。 ・今年も各生徒の進路は本人保護者のほぼ希望通りである。</td> </tr> </table>	評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	生徒指導	○日常の生徒の進路や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築	・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が多様多岐であり、学校不適合による意欲の低下やいじめなどの人間関係トラブルを各学期のアンケート調査や個人面談により事前に察知し、全教員でその情報の共有をはかる。	4:個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3:個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2:支援と指導に取り組みしたが、事後対応が主であった。 1:支援と指導が不十分であった。	4	・学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われてきた。希望に応じて、保護者のカウンセリングもしている。 ・また、校外での各種機関(市役所、児童相談所)とも必要な場合は連絡を取り、事業によっては協議に参加してきた。	○個々の生徒の進路支援の充実	・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。 ・「総合的な探究の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。	4:7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3:半数以上の生徒へは支援をすることができた。 2:情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1:情報伝達に終わった。 4:生徒の70%以上が受検し、合格率は50%以上であった。 3:生徒の70%以上が受検し、合格率は30%以上であった。 2:生徒の50%以上が受検した。 1:生徒の50%未満しか受検しなかった。	4	・例年通りの進路決定に伴う支援をしてきた。進路希望を明確にしている生徒については、進学、就職ともに順調に進んだ。本年度進学希望者が増え、4年制大学3名(うち1名山陽小野田市立山田高等学校)、短大1名、専門学校6名であった。就職希望の生徒は少く、就職試験は1名が受検し、正規採用内定を得た。他の3名はアルバイト継続や家庭である。 ・今年も各生徒の進路は本人保護者のほぼ希望通りである。
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析																														
学習指導	○生徒が自己肯定感をもてる取り組みを行う授業の研究を行い、教員全体の更なる指導力の向上を図る。	・理解しやすい授業、わかる授業により基礎基本の定着を図るとともに、学習意欲向上に繋がる評価方法を確立。 ・ICTを活用した授業展開の研究を行い、教員全体の更なる指導力の向上を図る。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計が48.0%以上であった。 2:40%以上であった。 1:40%未満であった。	4	・本校では3・4年次から、卒業後の進路に繋げるため、普通コースと商業コースに選択分けをしている。特に商業コースでは資格取得取得も併せており、生徒は各層に向けて頑張っている。また、普通コースにおいては、生活に即した内容も随時取り上げ、学習は単なる知識ではなく、実生活を豊かにすることに繋がっている事に気づかせる授業を展開している。授業アンケートでは、「よくあてはまる」67%、「ややあてはまる」26%の高い評価を得た。																														
	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに充実させる。また保護者との連絡を密に行い、家庭との協力や相談を密にする。	4:研修会や検討会に参加し、指導力向上に繋がった。 3:研修会や検討会に参加し、指導力向上に繋がった。 2:研修会や検討会に参加したが、思うように指導力向上に繋がることができなかった。 1:研修会や検討会に参加したが、指導力向上に繋がることができなかった。	3	・生徒全員にタブレットが配付されており、教室には電子黒板が設置されている。また、教員用のタブレット1台ずつ完備されICT環境は整備されている。機器の使用に慣れない教員が多かったが、ICT機器の効率的・効果的な使い方を模索し、昨年に比べ多くの教員がスキルアップしてきている。また、週1回ICT支援員の方から、基本的な操作方法や効果的な指導方法を学ぶことが、ICTを用いた授業展開の工夫に大いに役立っている。また、本年度より始まるフルクラウド化を見据え、教職員を中心に対応を進めているところである。																														
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析																														
生徒指導	○日常の生徒の進路や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築	・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が多様多岐であり、学校不適合による意欲の低下やいじめなどの人間関係トラブルを各学期のアンケート調査や個人面談により事前に察知し、全教員でその情報の共有をはかる。	4:個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3:個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2:支援と指導に取り組みしたが、事後対応が主であった。 1:支援と指導が不十分であった。	4	・学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われてきた。希望に応じて、保護者のカウンセリングもしている。 ・また、校外での各種機関(市役所、児童相談所)とも必要な場合は連絡を取り、事業によっては協議に参加してきた。																														
	○個々の生徒の進路支援の充実	・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。 ・「総合的な探究の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。	4:7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3:半数以上の生徒へは支援をすることができた。 2:情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1:情報伝達に終わった。 4:生徒の70%以上が受検し、合格率は50%以上であった。 3:生徒の70%以上が受検し、合格率は30%以上であった。 2:生徒の50%以上が受検した。 1:生徒の50%未満しか受検しなかった。	4	・例年通りの進路決定に伴う支援をしてきた。進路希望を明確にしている生徒については、進学、就職ともに順調に進んだ。本年度進学希望者が増え、4年制大学3名(うち1名山陽小野田市立山田高等学校)、短大1名、専門学校6名であった。就職希望の生徒は少く、就職試験は1名が受検し、正規採用内定を得た。他の3名はアルバイト継続や家庭である。 ・今年も各生徒の進路は本人保護者のほぼ希望通りである。																														
<table border="1"> <tr> <th>特別活動</th> <th>重点目標</th> <th>具体的方策(教育活動)</th> <th>評価基準</th> <th>達成度</th> <th>重点目標の達成状況の診断・分析</th> </tr> <tr> <td>○生徒会における自主的な企画と活動を行い、生徒自身の手で良い習慣が身につくように支援する。確立的活動を通して、集団や社会の一員としての実践的態度を育てる。</td> <td>・新入生歓迎会、明日景観、体育大会、卒業生を送る会などの生徒会行事に変更や工夫を加えることで、多くの行事を実施し、全生徒を主体的に活動させる。始業式や終業式、定例会行などの学校行事も生徒それぞれが積極的に参加し、思い出し残るものとする。</td> <td>4:すべての行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 3:2つ以上の行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 2:1つ以上の行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 1:すべての行事で主体的かつ協力的に活動させることができなかった。</td> <td>4</td> <td>・生徒会行事も制限が少く行われ、今年度は、コロナ前に戻すことで恒例行事も実施した。また、新たな行事も実施した。 ・生徒数は27名ではあるが、集団に参加できない、意欲が低いなど、多様な生徒がいる。なるべく多くの生徒が参加できるよう行事に変更や工夫を加えて、様々な経験を積ませたい。</td> </tr> </table>	特別活動	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	○生徒会における自主的な企画と活動を行い、生徒自身の手で良い習慣が身につくように支援する。確立的活動を通して、集団や社会の一員としての実践的態度を育てる。	・新入生歓迎会、明日景観、体育大会、卒業生を送る会などの生徒会行事に変更や工夫を加えることで、多くの行事を実施し、全生徒を主体的に活動させる。始業式や終業式、定例会行などの学校行事も生徒それぞれが積極的に参加し、思い出し残るものとする。	4:すべての行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 3:2つ以上の行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 2:1つ以上の行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 1:すべての行事で主体的かつ協力的に活動させることができなかった。	4	・生徒会行事も制限が少く行われ、今年度は、コロナ前に戻すことで恒例行事も実施した。また、新たな行事も実施した。 ・生徒数は27名ではあるが、集団に参加できない、意欲が低いなど、多様な生徒がいる。なるべく多くの生徒が参加できるよう行事に変更や工夫を加えて、様々な経験を積ませたい。	<table border="1"> <tr> <th>業務改善</th> <th>重点目標</th> <th>具体的方策(教育活動)</th> <th>評価基準</th> <th>達成度</th> <th>重点目標の達成状況の診断・分析</th> </tr> <tr> <td>○外部との連携</td> <td>・進路指導、生徒指導、教務それぞれの領域で、専門機関や外部講師との連携を深め、教職員間の情報交換を促進し、協働体制を整える。</td> <td>4:外部との連携が進み教育活動全般がスムーズに行われた。 3:外部との連携は進んだが指導力の向上まではできなかった。 2:外部との連携は従来通りで仕事分担に大きな変化はなかった。 1:外部との連携が進まずに学校教育活動に支障がでた。</td> <td>4</td> <td>・進路指導において、ハローワーク、山口こどもセンター、就職サポートセンターによる講演会やセミナーなどを実施した。進路指導や職業等の情報提供を積極的にを行い、生徒が進路目標を定め、達成できるよう支援を行った。 ・また教育相談等においても、スクールカウンセラー、児童相談所、警察、こも支援員等と連携し、支援や情報を得ながら、教職員間で情報共有を行い、指導の方向性を全員で共有した。</td> </tr> <tr> <td>○職員室の作業環境の見直しによる業務の効率化</td> <td>・定期的な職員室の書架や校内サーバー内の文書を整理し、業務の精通と情報へのアクセスの効率化を図る。</td> <td>4:学期に1回以上を整理をした。 3:年間2回整理をした。 2:年間1回しか出来なかった。 1:1回も出来なかった。</td> <td>4</td> <td>・令和6年度途中に実施されるフルクラウド化に向けて、各分掌業務のデータを整理し、適切な業務の移行や引継ぎができるよう準備を行っている。ICT支援員の協力や他から、作業環境の改善とともに、個人のICT活用能力の向上にも取り組んだ。</td> </tr> </table>	業務改善	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	○外部との連携	・進路指導、生徒指導、教務それぞれの領域で、専門機関や外部講師との連携を深め、教職員間の情報交換を促進し、協働体制を整える。	4:外部との連携が進み教育活動全般がスムーズに行われた。 3:外部との連携は進んだが指導力の向上まではできなかった。 2:外部との連携は従来通りで仕事分担に大きな変化はなかった。 1:外部との連携が進まずに学校教育活動に支障がでた。	4	・進路指導において、ハローワーク、山口こどもセンター、就職サポートセンターによる講演会やセミナーなどを実施した。進路指導や職業等の情報提供を積極的にを行い、生徒が進路目標を定め、達成できるよう支援を行った。 ・また教育相談等においても、スクールカウンセラー、児童相談所、警察、こも支援員等と連携し、支援や情報を得ながら、教職員間で情報共有を行い、指導の方向性を全員で共有した。	○職員室の作業環境の見直しによる業務の効率化	・定期的な職員室の書架や校内サーバー内の文書を整理し、業務の精通と情報へのアクセスの効率化を図る。	4:学期に1回以上を整理をした。 3:年間2回整理をした。 2:年間1回しか出来なかった。 1:1回も出来なかった。	4	・令和6年度途中に実施されるフルクラウド化に向けて、各分掌業務のデータを整理し、適切な業務の移行や引継ぎができるよう準備を行っている。ICT支援員の協力や他から、作業環境の改善とともに、個人のICT活用能力の向上にも取り組んだ。	<table border="1"> <tr> <th>学校関係者からの意見・要望等</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上が進路意識につながるかと考える。これからは、「わかる授業」であるから、新しい授業づくりを目指してほしい。 ICTの活用は授業の効率化に限らず、主体的な学びにつながる。同時に、生徒が主体的に学ぶことの活用はあらゆる場面で活用されていることを踏まえ、積極的に活用していくべきである。教員間の活用に関する格差をどう解消していくか。 様々な状況を抱える生徒たちの学びを支えていく定時制の存在は、社会的意義も非常に大きい。一人ひとりに寄り添った、かつ、きめ細かな対応がなされている。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大切にされている取組は評価できる。学校と関係機関がこれらも連携して、全ての生徒の進路実現に向けて取り組んでほしい。 友人関係の希薄さの解消につながる取組は、今後もしっかりと体制強化してほしい。 </td> </tr> </table>	学校関係者からの意見・要望等	評価	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上が進路意識につながるかと考える。これからは、「わかる授業」であるから、新しい授業づくりを目指してほしい。 ICTの活用は授業の効率化に限らず、主体的な学びにつながる。同時に、生徒が主体的に学ぶことの活用はあらゆる場面で活用されていることを踏まえ、積極的に活用していくべきである。教員間の活用に関する格差をどう解消していくか。 様々な状況を抱える生徒たちの学びを支えていく定時制の存在は、社会的意義も非常に大きい。一人ひとりに寄り添った、かつ、きめ細かな対応がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大切にされている取組は評価できる。学校と関係機関がこれらも連携して、全ての生徒の進路実現に向けて取り組んでほしい。 友人関係の希薄さの解消につながる取組は、今後もしっかりと体制強化してほしい。 		
特別活動	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析																														
○生徒会における自主的な企画と活動を行い、生徒自身の手で良い習慣が身につくように支援する。確立的活動を通して、集団や社会の一員としての実践的態度を育てる。	・新入生歓迎会、明日景観、体育大会、卒業生を送る会などの生徒会行事に変更や工夫を加えることで、多くの行事を実施し、全生徒を主体的に活動させる。始業式や終業式、定例会行などの学校行事も生徒それぞれが積極的に参加し、思い出し残るものとする。	4:すべての行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 3:2つ以上の行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 2:1つ以上の行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 1:すべての行事で主体的かつ協力的に活動させることができなかった。	4	・生徒会行事も制限が少く行われ、今年度は、コロナ前に戻すことで恒例行事も実施した。また、新たな行事も実施した。 ・生徒数は27名ではあるが、集団に参加できない、意欲が低いなど、多様な生徒がいる。なるべく多くの生徒が参加できるよう行事に変更や工夫を加えて、様々な経験を積ませたい。																															
業務改善	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析																														
○外部との連携	・進路指導、生徒指導、教務それぞれの領域で、専門機関や外部講師との連携を深め、教職員間の情報交換を促進し、協働体制を整える。	4:外部との連携が進み教育活動全般がスムーズに行われた。 3:外部との連携は進んだが指導力の向上まではできなかった。 2:外部との連携は従来通りで仕事分担に大きな変化はなかった。 1:外部との連携が進まずに学校教育活動に支障がでた。	4	・進路指導において、ハローワーク、山口こどもセンター、就職サポートセンターによる講演会やセミナーなどを実施した。進路指導や職業等の情報提供を積極的にを行い、生徒が進路目標を定め、達成できるよう支援を行った。 ・また教育相談等においても、スクールカウンセラー、児童相談所、警察、こも支援員等と連携し、支援や情報を得ながら、教職員間で情報共有を行い、指導の方向性を全員で共有した。																															
○職員室の作業環境の見直しによる業務の効率化	・定期的な職員室の書架や校内サーバー内の文書を整理し、業務の精通と情報へのアクセスの効率化を図る。	4:学期に1回以上を整理をした。 3:年間2回整理をした。 2:年間1回しか出来なかった。 1:1回も出来なかった。	4	・令和6年度途中に実施されるフルクラウド化に向けて、各分掌業務のデータを整理し、適切な業務の移行や引継ぎができるよう準備を行っている。ICT支援員の協力や他から、作業環境の改善とともに、個人のICT活用能力の向上にも取り組んだ。																															
学校関係者からの意見・要望等	評価																																		
<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上が進路意識につながるかと考える。これからは、「わかる授業」であるから、新しい授業づくりを目指してほしい。 ICTの活用は授業の効率化に限らず、主体的な学びにつながる。同時に、生徒が主体的に学ぶことの活用はあらゆる場面で活用されていることを踏まえ、積極的に活用していくべきである。教員間の活用に関する格差をどう解消していくか。 様々な状況を抱える生徒たちの学びを支えていく定時制の存在は、社会的意義も非常に大きい。一人ひとりに寄り添った、かつ、きめ細かな対応がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大切にされている取組は評価できる。学校と関係機関がこれらも連携して、全ての生徒の進路実現に向けて取り組んでほしい。 友人関係の希薄さの解消につながる取組は、今後もしっかりと体制強化してほしい。 																																		
<table border="1"> <tr> <th>【成果】</th> <td> <ul style="list-style-type: none"> ①スクールカウンセラーや様々な外部機関と連携して、ひとりひとりの生徒に対して適切な支援を行うことができた。 ②ビジネス文書検定に多くの生徒が合格し、漢字検定でも2級を合格するなど、資格取得に対する意欲が向上してきており、スキルアップタイムの成果が出ている。 ③コロナ禍以後、かつての行事を復活させるだけでなく、新たな行事を考えることで、生徒会行事を活性化でき、生徒の自己肯定感を高めることができた。 ④卒業学年生徒に対して個に応じた支援を行い、公立大学合格などかつてないほどに進路目標を達成した。 </td> </tr> <tr> <th>【課題】</th> <td> <ul style="list-style-type: none"> ①生徒が他者と関わり、協働しようとする姿勢を育成していくことが大切である。そのための行事やしくみを考えたい。 ②個別支援が必要な生徒、集団での活動が苦手な生徒が増加傾向にある。進路実現も含めて多面的に成長を促す必要性がある。 ③ICT機器の活用は昨年度より確実に向上したが、さらにスキルアップの必要がある。 ④地域との連携という点においては、より積極的な取組が必要である。 </td> </tr> </table>	【成果】	<ul style="list-style-type: none"> ①スクールカウンセラーや様々な外部機関と連携して、ひとりひとりの生徒に対して適切な支援を行うことができた。 ②ビジネス文書検定に多くの生徒が合格し、漢字検定でも2級を合格するなど、資格取得に対する意欲が向上してきており、スキルアップタイムの成果が出ている。 ③コロナ禍以後、かつての行事を復活させるだけでなく、新たな行事を考えることで、生徒会行事を活性化でき、生徒の自己肯定感を高めることができた。 ④卒業学年生徒に対して個に応じた支援を行い、公立大学合格などかつてないほどに進路目標を達成した。 	【課題】	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が他者と関わり、協働しようとする姿勢を育成していくことが大切である。そのための行事やしくみを考えたい。 ②個別支援が必要な生徒、集団での活動が苦手な生徒が増加傾向にある。進路実現も含めて多面的に成長を促す必要性がある。 ③ICT機器の活用は昨年度より確実に向上したが、さらにスキルアップの必要がある。 ④地域との連携という点においては、より積極的な取組が必要である。 	<table border="1"> <tr> <th>7 次年度への改善策</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ①学校行事の目標を全体で共有し、他者との共生・協働しようとする姿勢を育む。 ②入学後すぐに中学校、関係機関と連携して生徒支援の切れ目が無いようにしていく。また早期からキャリア教育を意識して教職員全体で取り組んでいく。 ③フルクラウド化やICT機器の積極的活用のために、校内研修の充実を図る。 ④地域との連携を図り、生徒の探究活動を促進し、キャリアアップにつなげる。 </td> </tr> </table>	7 次年度への改善策	<ul style="list-style-type: none"> ①学校行事の目標を全体で共有し、他者との共生・協働しようとする姿勢を育む。 ②入学後すぐに中学校、関係機関と連携して生徒支援の切れ目が無いようにしていく。また早期からキャリア教育を意識して教職員全体で取り組んでいく。 ③フルクラウド化やICT機器の積極的活用のために、校内研修の充実を図る。 ④地域との連携を図り、生徒の探究活動を促進し、キャリアアップにつなげる。 																												
【成果】	<ul style="list-style-type: none"> ①スクールカウンセラーや様々な外部機関と連携して、ひとりひとりの生徒に対して適切な支援を行うことができた。 ②ビジネス文書検定に多くの生徒が合格し、漢字検定でも2級を合格するなど、資格取得に対する意欲が向上してきており、スキルアップタイムの成果が出ている。 ③コロナ禍以後、かつての行事を復活させるだけでなく、新たな行事を考えることで、生徒会行事を活性化でき、生徒の自己肯定感を高めることができた。 ④卒業学年生徒に対して個に応じた支援を行い、公立大学合格などかつてないほどに進路目標を達成した。 																																		
【課題】	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が他者と関わり、協働しようとする姿勢を育成していくことが大切である。そのための行事やしくみを考えたい。 ②個別支援が必要な生徒、集団での活動が苦手な生徒が増加傾向にある。進路実現も含めて多面的に成長を促す必要性がある。 ③ICT機器の活用は昨年度より確実に向上したが、さらにスキルアップの必要がある。 ④地域との連携という点においては、より積極的な取組が必要である。 																																		
7 次年度への改善策																																			
<ul style="list-style-type: none"> ①学校行事の目標を全体で共有し、他者との共生・協働しようとする姿勢を育む。 ②入学後すぐに中学校、関係機関と連携して生徒支援の切れ目が無いようにしていく。また早期からキャリア教育を意識して教職員全体で取り組んでいく。 ③フルクラウド化やICT機器の積極的活用のために、校内研修の充実を図る。 ④地域との連携を図り、生徒の探究活動を促進し、キャリアアップにつなげる。 																																			